



フォールバック ブリッジングの設定

この章では、Catalyst 3750 スイッチにフォールバック ブリッジング (VLAN [仮想 LAN] ブリッジング) を設定する方法について説明します。フォールバック ブリッジングを使用すると、スイッチが VLAN ブリッジ ドメインとルーテッド ポート間でルーティングしない、非 IP パケットを転送できます。

この機能を使用するには、スタック マスター上で IP サービス イメージ (以前の Enhanced Multilayer Image [EMI; 拡張マルチレイヤ イメージ]) が稼動している必要があります。特に明記しないかぎり、スイッチという用語はスタンドアロン スイッチおよびスイッチ スタックを意味します。



(注)

この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、『Cisco IOS Bridging and IBM Networking Command Reference, Volume 1 of 2』 Release 12.2 を参照してください。このマニュアルは、Cisco.com の [Documentation] > [Cisco IOS Software] > [12.2 Mainline] > [Command References] を選択すると表示されるページでご利用になれます。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「フォールバック ブリッジングの概要」 (P.48-1)
- 「フォールバック ブリッジングの設定」 (P.48-3)
- 「フォールバック ブリッジングのモニタリングおよびメンテナンス」 (P.48-11)

フォールバック ブリッジングの概要

ここでは、フォールバック ブリッジングの機能について説明します。

- 「フォールバック ブリッジングの概要」 (P.48-1)
- 「フォールバック ブリッジングおよびスイッチ スタック」 (P.48-3)

フォールバック ブリッジングの概要

フォールバック ブリッジングを使用すると、スイッチは複数の VLAN またはルーテッド ポート (特に 1 つのブリッジ ドメイン内で複数の VLAN に接続されている VLAN またはルーテッド ポート) をまとめてブリッジングできます。フォールバック ブリッジングを行うと、スイッチでルーティングされないトラフィックや DECnet など、ルーティングできないプロトコルに属するトラフィックが転送されます。

VLAN ブリッジ ドメインは、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) によって表されます。(VLAN が関連付けられていない) 一連の SVI およびルーテッド ポートは、ブリッジ グループを形成するように設定 (グループ化) できます。SVI はスイッチ ポートの VLAN を、システム内のルーティング機能またはブリッジング機能へのインターフェイスの 1 つとして表します。1 つの VLAN に関連付けることができる SVI は 1 つだけです。VLAN 間のルーティング、VLAN 間でルーティングできないプロトコルのフォールバック ブリッジング、またはスイッチと IP ホストの接続を実現する場合のみ、VLAN に SVI を設定してください。ルーテッド ポートはルータ上のポートと同様に機能する物理ポートですが、ルータには接続されていません。ルーテッド ポートは特定の VLAN と関連付けられておらず、VLAN サブインターフェイスをサポートしていませんが、通常のルーテッド ポートのように動作します。SVI およびルーテッド ポートの詳細については、第 12 章「インターフェイス特性の設定」を参照してください。

ブリッジ グループは、スイッチ上のネットワーク インターフェイスの内部構造です。ブリッジ グループが定義されているスイッチの外側にあるブリッジ グループ内では、スイッチングされるトラフィックを識別するためにブリッジ グループを使用することはできません。同じスイッチ上のブリッジ グループは、異なるブリッジとして機能します。つまり、スイッチ上の異なるブリッジ グループ間で、ブリッジドトラフィックおよび Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータ ユニット) は交換されません。

フォールバック ブリッジングを使用しても、ブリッジングされている VLAN のスパニング ツリーは縮小できません。各 VLAN には、独自のスパニング ツリー インスタンスと、ループを防止するためにブリッジ グループの一番上で動作する個別のスパニング ツリー (別名 VLAN ブリッジ スパニング ツリー) があります。

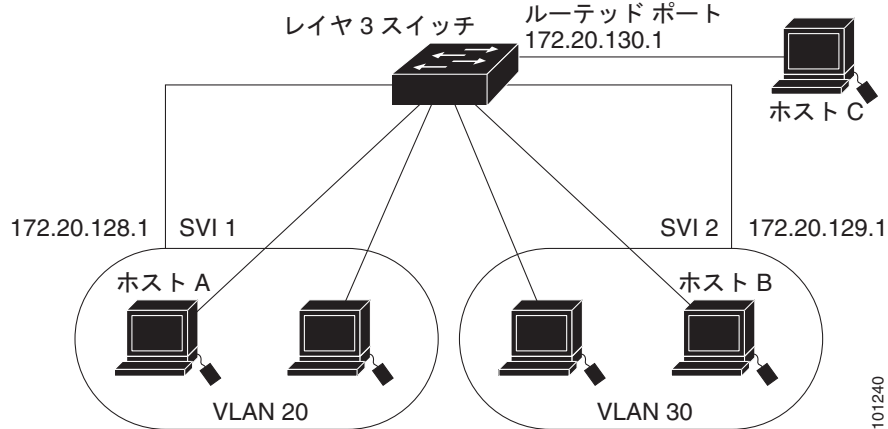
ブリッジ グループが作成されると、スイッチは VLAN ブリッジ スパニング ツリー インスタンスを作成します。スイッチはブリッジ グループを実行し、ブリッジ グループ内の SVI およびルーテッド ポートをスパニング ツリー ポートとして処理します。

ネットワーク インターフェイスをブリッジ グループに格納する理由は、次のとおりです。

- ブリッジ グループを構成するネットワーク インターフェイス間でルーティングされない全トラフィックをブリッジングするため。宛先アドレスがブリッジ テーブルに格納されているパケットは、ブリッジ グループ内の単一のインターフェイス上で転送されます。宛先アドレスがブリッジ テーブル内に格納されていないパケットは、ブリッジ グループ内のすべてのインターフェイス上でフラッドされます。ブリッジ グループで送信元 MAC アドレスが取得されるのは、このアドレスが VLAN 上で取得された場合のみです (この逆は成り立ちません)。スタック メンバーで取得されたアドレスは、スタック内のすべてのスイッチで取得されます。
- 接続されている LAN 上で BPDU を受信 (場合によっては送信) することにより、スパニング ツリー アルゴリズムに参加するため。設定されたブリッジ グループごとに、個別のスパニング ツリー プロセスが動作します。各ブリッジ グループは個別のスパニング ツリー インスタンスに参加します。ブリッジ グループは、メンバー インターフェイスだけが受信する BPDU に基づいて、スパニング ツリー インスタンスを確立します。VLAN がブリッジ グループに属していないポートに着信したブリッジ Spanning-Tree Bridge Protocol (STP; スパニング ツリー ブリッジ プロトコル) BPDU は、VLAN のすべての転送ポートでフラッドされます。

図 48-1 に、フォールバック ブリッジング ネットワークの例を示します。このスイッチには、SVI として 2 つのポートが設定されています。これらの SVI は異なる IP アドレスを持ち、2 つの異なる VLAN に接続されています。さらに、もう 1 つのポートが独自の IP アドレスを持つルーテッド ポートとして設定されています。これらの 3 つのポートがすべて同じブリッジ グループに割り当てられている場合は、これらのポートが異なるネットワークや異なる VLAN にあっても、スイッチに接続されているエンドステーション間で非 IP プロトコル フレームを転送できます。フォールバック ブリッジングを機能させるために IP アドレスをルーテッド ポートや SVI に割り当てる必要はありません。

図 48-1 フォールバックブリッジングネットワークの例



フォールバックブリッジングおよびスイッチスタック

スタック マスターに障害が発生すると、第 6 章「スイッチスタックの管理」に記載された選択プロセスを使用して、スタック メンバーの 1 つが新しいスタック マスターになります。新しいスタック マスターは新しい VLAN ブリッジ スパニング ツリー インスタンスを作成し、このインスタンスはフォールバックブリッジングに使用されるスパニング ツリー ポートを一時的に非フォワーディング ステートにします。スパニング ツリー ステートがフォワーディング ステートに移行するまでは、一時的にトラフィックが中断されることがあります。ブリッジ グループで、すべての MAC アドレスを取得し直す必要があります。



(注)

IP サービス イメージを実行しているスタック マスターで障害が発生し、新しく選択されたスタック マスターが IP ベース イメージ (以前の標準マルチレイヤ イメージ [SMI]) を実行している場合、そのスイッチスタックのフォールバックブリッジング機能は失われます。

スタックを統合するか、またはスタックに新しいスイッチを追加すると、ブリッジ グループに属する、アクティブになった新しい VLAN が、VLAN ブリッジ STP に追加されます。

スタック メンバーに障害が発生すると、このメンバーから取得されたアドレスがブリッジ グループ MAC アドレス テーブルから削除されます。

スイッチスタックの詳細については、第 6 章「スイッチスタックの管理」を参照してください。

フォールバックブリッジングの設定

ここでは、次の設定情報について説明します。

- 「フォールバックブリッジングのデフォルト設定」(P.48-4)
- 「フォールバックブリッジング設定時の注意事項」(P.48-4)
- 「ブリッジグループの作成」(P.48-4) (必須)
- 「スパニング ツリー パラメータの調整」(P.48-6) (任意)

フォールバック ブリッジングのデフォルト設定

表 48-1 に、フォールバック ブリッジングのデフォルト設定を示します。

表 48-1 フォールバック ブリッジングのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
ブリッジ グループ	未定義であるか、またはポートに割り当てられていません。VLAN ブリッジ STP は定義されていません。
動的に学習されたステーションに対するスイッチからのフレーム転送	イネーブル。
スパニング ツリー パラメータ	
<ul style="list-style-type: none"> • スイッチ プライオリティ • ポート プライオリティ • ポート パス コスト 	<ul style="list-style-type: none"> • 32768 • 128 • 10 Mbps : 100 100 Mbps : 19 1000 Mbps : 4
<ul style="list-style-type: none"> • hello BPDU インターバル • 転送遅延インターバル • 最大アイドル時間 	<ul style="list-style-type: none"> • 2 秒 • 20 秒 • 30 秒

フォールバック ブリッジング設定時の注意事項

スイッチには、最大 32 個のブリッジ グループを設定できます。

1 つのインターフェイス (SVI またはルーテッド ポート) が所属できるブリッジ グループは 1 つだけです。

スイッチに接続されている個別のブリッジド ネットワーク (トポロジの上で区別されるネットワーク) ごとに、1 つのブリッジ グループを使用してください。

フォールバック ブリッジングをプライベート VLAN が設定されたスイッチに設定しないでください。

IP (バージョン 4 とバージョン 6)、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル)、Reverse ARP (RARP)、LOOPBACK、フレーム リレー ARP、共有 STP パケットを除くすべてのプロトコルは、フォールバック ブリッジングされます。

ブリッジ グループの作成

一連の SVI またはルーテッド ポートにフォールバック ブリッジングを設定する場合は、これらのインターフェイスをブリッジ グループに割り当てる必要があります。同じグループ内のすべてのインターフェイスは、同じブリッジ ドメインに属します。各 SVI またはルーテッド ポートは、1 つのブリッジ グループだけに割り当てることができます。



(注)

保護ポート機能をフォールバック ブリッジングと併用することはできません。フォールバック ブリッジングがイネーブルである場合、スイッチ上の 1 つの保護ポートから、別の VLAN 内にある同じスイッチ上の別の保護ポートにパケットが転送される可能性があります。

ブリッジグループを作成し、そこにインターフェイスを割り当てるには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は必須です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>bridge bridge-group protocol vlan-bridge</code>	ブリッジグループ番号を割り当て、ブリッジグループで実行する VLAN ブリッジ スパニング ツリー プロトコルを指定します。 ibm および dec キーワードはサポートされていません。 <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。最大 32 個のブリッジグループを作成できます。 フレームは同じグループ内のインターフェイス間でのみブリッジされます。
ステップ 3	<code>interface interface-id</code>	ブリッジグループを割り当てるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 次のいずれかのインターフェイスを指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ルーテッドポート: no switchport インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して、レイヤ 3 ポートとして設定された物理ポートです。 SVI: interface vlan vlan-id グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して作成された VLAN インターフェイスです。 (注) ルーテッドポートや SVI に IP アドレスを割り当てることができますが、これは必須ではありません。
ステップ 4	<code>bridge-group bridge-group</code>	ステップ 2 で作成したブリッジグループにインターフェイスを割り当てます。 デフォルトでは、インターフェイスはどのブリッジグループにも割り当てられていません。インターフェイスは 1 つのブリッジグループにのみ割り当てることができます。
ステップ 5	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

ブリッジグループを削除するには、**no bridge bridge-group** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。**no bridge bridge-group** コマンドを使用すると、該当するブリッジグループからすべての SVI およびルーテッドポートが自動的に削除されます。ブリッジグループからインターフェイスを削除したり、ブリッジグループを削除するには、**no bridge-group bridge-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 を作成してこのブリッジグループ内で実行する VLAN ブリッジ STP を指定し、ポートをルーテッドポートとして定義して、ブリッジグループにポートを割り当てる例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 protocol vlan-bridge
Switch(config)# interface gigabitethernet3/0/1
Switch(config-if)# no switchport
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# bridge-group 10
```

次に、ブリッジ グループ 10 を作成して、このブリッジ グループで実行する VLAN ブリッジ STP を指定する例を示します。VLAN 2 の SVI を定義し、これをブリッジ グループに割り当てます。

```
Switch(config)# bridge 10 protocol vlan-bridge
Switch(config)# vlan 2
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# interface vlan2
Switch(config-if)# bridge-group 10
Switch(config-if)# exit
```

スパンニング ツリー パラメータの調整

特定のスパンニング ツリー パラメータのデフォルト値が不適切な場合は、このパラメータを調整する必要があります。スパンニング ツリー全体に影響するパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイス固有のパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

スパンニング ツリー パラメータを調整するには、次に示す作業のいずれかを実行します。

- 「VLAN ブリッジ スパンニング ツリー プライオリティの変更」(P.48-6) (任意)
- 「インターフェイス プライオリティの変更」(P.48-7) (任意)
- 「パス コストの割り当て」(P.48-8) (任意)
- 「BPDU インターバルの調整」(P.48-8) (任意)
- 「インターフェイスでのスパンニング ツリーのディセーブル化」(P.48-10) (任意)



(注)

スパンニング ツリー パラメータの調整は、スイッチおよび STP の機能に精通しているネットワーク管理者のみが行ってください。計画が不十分なまま調整を行うと、パフォーマンスの低下を招くことがあります。スイッチングに関する資料としては、IEEE 802.1D 仕様が適しています。詳細については、『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference』の付録「References and Recommended Reading」を参照してください。

VLAN ブリッジ スパンニング ツリー プライオリティの変更

ルート スイッチの候補として別のスイッチと同等のレベルにあるスイッチには、VLAN ブリッジ スパンニング ツリー プライオリティをグローバルに設定できます。このスイッチがルート スイッチとして選択される可能性を設定することもできます。

スイッチ プライオリティを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を行います。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge <i>bridge-group</i> priority <i>number</i>	スイッチの VLAN ブリッジ スパニング ツリー プライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <i>number</i> には、0 ~ 65535 の数字を入力します。デフォルト値は 32768 です。この値が低いほど、スイッチがルートとして選択される可能性が高くなります。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge *bridge-group* priority** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。ポートのプライオリティを変更するには、**bridge-group priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します (次のセクションを参照)。

次に、ブリッジ グループ 10 のスイッチ プライオリティを 100 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 priority 100
```

インターフェイス プライオリティの変更

ポートのプライオリティを変更できます。2 つのスイッチがルート スイッチの候補として同等のレベルにある場合は、レベルに差が付くようにポート プライオリティを設定します。インターフェイスのプライオリティ値が低いスイッチが選択されます。

インターフェイス プライオリティを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface <i>interface-id</i>	プライオリティを設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	bridge-group <i>bridge-group</i> priority <i>number</i>	ポート プライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <i>number</i> には、0 ~ 255 の値を入力します (増分値は 4)。この値が低いほど、スイッチのポートがルートとして選択される可能性が高くなります。デフォルト値は 128 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config	設定を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge-group *bridge-group* priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

■ フォールバックブリッジングの設定

次に、ブリッジグループ 10 内のポートのプライオリティを 20 に変更する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge-group 10 priority 20
```

パスコストの割り当て

各ポートにはパスコストが割り当てられています。規定では、パスコストは 1000/接続された LAN のデータ速度の値を Mbps 単位で表したものです。

パスコストを割り当てるには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	パスコストを設定するポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>bridge-group bridge-group path-cost cost</code>	<p>ポートのパスコストを割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>bridge-group</code> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <code>cost</code> には、0 ~ 65535 の数字を入力します。値が大きいくほど、コストは大きくなります。 <ul style="list-style-type: none"> 10 Mbps の場合、デフォルトのパスコストは 100 です。 100 Mbps の場合、デフォルトのパスコストは 19 です。 1000 Mbps の場合、デフォルトのパスコストは 4 です。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルトのパスコストに戻すには、`no bridge-group bridge-group path-cost` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内のポートのパスコストを 20 に変更する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge-group 10 path-cost 20
```

BPDU インターバルの調整

ここでは、BPDU インターバルを調整する手順について説明します。

- 「[hello BPDU インターバルの調整](#)」(P.48-9) (任意)
- 「[転送遅延インターバルの変更](#)」(P.48-9) (任意)
- 「[最大アイドル時間の変更](#)」(P.48-10) (任意)



(注)

スパニングツリーの各スイッチには、個々の設定に関係なく、ルートスイッチの hello BPDU インターバル、転送遅延インターバル、および最大アイドル時間パラメータが採用されています。

hello BPDU インターバルの調整

hello BPDU インターバルを調整するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group hello-time seconds	hello BPDU インターバルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <i>seconds</i> には、1 ~ 10 の数字を入力します。デフォルト値は 2 です。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group hello-time** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内の hello インターバルを 5 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 hello-time 5
```

転送遅延インターバルの変更

転送遅延インターバルは、ポートでスイッチングがアクティブになってから実際に転送を開始するまでの時間です。この間にトポロジ変更情報のリスニングが行われます。

転送遅延インターバルを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group forward-time seconds	転送遅延インターバルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <i>seconds</i> には、4 ~ 200 の数字を入力します。デフォルト値は 20 です。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group forward-time** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内の転送遅延インターバルを 10 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 forward-time 10
```

最大アイドル時間の変更

指定時間内にルート スイッチから BPDU が受信されない場合は、スパニング ツリー トポロジが再計算されます。

最大アイドル時間（最大エージング タイム）を変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>bridge bridge-group max-age seconds</code>	ルート スイッチから BPDU をヒアリングするために待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <code>bridge-group</code> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <code>seconds</code> には、6 ~ 200 の数字を入力します。デフォルトは 30 秒です。
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、`no bridge bridge-group max-age` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジ グループ 10 内の最大アイドル時間を 30 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 max-age 30
```

インターフェイスでのスパニング ツリーのディセーブル化

2 つの任意のスイッチング サブネットワーク間にループのないパスが存在する場合は、一方のスイッチング サブネットワークで生成された BPDU の影響が他方のサブネットワーク内のデバイスに及ばないようにできます (ただし、ネットワーク全体に及ぶスイッチングは可能です)。たとえば、スイッチング LAN サブネットワークが WAN によって分離されている場合は、BPDU の WAN リンク間移動を禁止できます。

ポート上でスパニング ツリーをディセーブルするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>bridge-group bridge-group spanning-disabled</code>	ポート上でスパニング ツリーをディセーブルにします。 <code>bridge-group</code> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

ポート上でスパンニング ツリーを再びイネーブルにするには、**no bridge-group bridge-group spanning-disabled** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジ グループ 10 内のポートのスパンニング ツリーをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge group 10 spanning-disabled
```

フォールバック ブリッジングのモニタリングおよびメンテナンス

ネットワークをモニタしてメンテナンスするには、表 48-2 に記載された特権 EXEC コマンドを 1 つまたは複数使用します。

表 48-2 フォールバック ブリッジングのモニタリングおよびメンテナンスのためのコマンド

コマンド	目的
clear bridge bridge-group	取得されたエントリを転送データベースから削除します。
show bridge [bridge-group] group	ブリッジ グループの詳細を表示します。
show bridge [bridge-group] [interface-id mac-address verbose]	ブリッジ グループ内で取得された MAC アドレスを表示します。

スタック メンバー上のブリッジ グループ MAC アドレス テーブルを表示するには、スタック マスターからスタック メンバーへのセッションを開始します。そのためには、**session stack-member-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。スタック メンバーのプロンプトに、**show bridge [bridge-group] [interface-id | mac-address | verbose]** 特権 EXEC コマンドを入力します。

画面に表示されるフィールドについては、『Cisco IOS Bridging and IBM Networking Command Reference, Volume 1 of 2』Release 12.2 を参照してください。このマニュアルは、Cisco.com の [Documentation] > [Cisco IOS Software] > [12.2 Mainline] > [Command References] を選択すると表示されるページでご利用になれます。

